



生まれ育ちは東京

1959年生まれのバリバリの昭和世代です。産声を上げたのは、なんと連合本部と同じ千代田区神田駿河台にある御茶ノ水の浜田病院です。実家は新宿区の神楽坂です。地元の小学校を卒業後、市谷加賀町(加賀百万石の屋敷跡)にあった中学校に通いました。小学校の一番の思い出は、3年生で始めた剣道で、その後、大学まで剣道部に所属し、教員になった後も部活動の顧問を続けました。「私たちは今日、校門の脇に咲く桜の花に見守られながら牛込第三中学校の生徒として校門をくぐりました。そこには、新しい中学校生活が待っていました」と、小学6年生で児童会長を務めたことから、新入生の誓いの詞を述べました。入学式に桜が散っていないか心配で前日に見に行ったことや、当日緊張からか誓いの詞で最後の日付を「6月6日」と間違えてしまったことを妙にはつきりと覚えていています。中学校での一番の思い出は、甘くて切ない初恋を経験したことと、漠然と将来は教員になりたいと思ったことです。

長嶋茂雄さんが育った佐倉市の学校で、35学級を超えるマンモス校でした。6人の新規採用者がいました。大量採用時代の波にも乗って運よく一度の挑戦で教員になれたのは、剣道の有段者だったからなのでしょう。私の前の顧問が剣道の経験がなく、保護者や体育館を使って稽古をしていた剣友会からの強い要望があったということです。市民大会で毎回3位がやっとだった女子剣道部は、赴任から4か月で印旛郡11市町村の大会で優勝し、県大会へと進みました。それから19年間、6校で教鞭を執り、剣道を中心に柔道・ソフトテニス・サッカー部の顧問を務め、3000人を超える教え子との教員生活になりました。

組合専従への道

私が組合に入ったのは、初任の学校でした。6人の新規採用者がいました。が、分会長が熱心に組合加入の話をしてくれました。畳の宿直室での説得で、6人は毎週一人ずつ加入し、私は「訳のわからない団体には入れない」と最後まで加入を拒否していました。3カ月粘りましたが、代わるがわる職場の先輩たちがオルグにきて、最後には同期

清水事務局長のハート・トゥ・ハート vol.1



剣道での学び

大学の体育会剣道部で学んだことは、私の人生に大きな影響を与えました。主将の先輩(剣道も強く、とにかく怖かった)から、毎日たくさんのお話を教えられました。人との接し方、話の聞き方、失敗した時の謝り方、宴席

での気配りと意思疎通の大事さ、そして、常にごまかしは通用しないことなどです。この時の経験が、私が生きていく中で、念願の教員になった時にも大きな拠りどころ、柱となりました。監督の滝泰三先生から教えていただいた言葉があります。江戸時代の良寛も愛唱し、芥川龍之介や太宰治も好んで引用した『君看よや、双眼の色。語らざれば、憂いなきに似たり』です。「憂い」は、予測される不安や心配、悲しみ、苦しみなどに心が沈むことです。人は、長い人生で幾度となく経験することですが、どのような状況下でも、普段と変わることなく、常に明るく微笑んでいられる人でありたい。語り尽くせないほどの同じく深い憂いを抱く者が看れば、私の心はわかるはず。目と目が合うだけで、一言も交わさなくても志は通じるものである。

19年間の教員生活

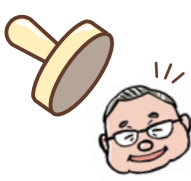
大学を出て、1983年に千葉県の公立学校(中学校)の国語科の教諭として奉職しました。戦後の第二次ベビーブームの子どもたちが中学生になる時期で、最初の赴任校は印旛沼に臨む野球の

の5人みんなでお前も入った方がいいぞ」と説得され、加入しました。その後は31人いた分会の青年部代表になりました。千葉県教組の青年部の執行委員になりました。「わしゃ、組合ってよくわからないけど、せつかくの話だからやってみたら」：青年部役員の件を相談した、私が職場で一番信頼していた教頭先生の言葉です。後に印旛支部130校、組合員2500人余りの書記長になりましたが、歴代役員名簿の書記長に教頭先生の名前があり、備考には「日教組政治部長3年」と記載されていました。青年部執行委員を探していた当時の青年部長が、支部OBである教頭先生に人選を相談していたようで、私は「言い出しつぺ」に自分の進むべき道を相談していたということです。その後は、日教組の中央執行委員、千葉県教組の書記長を経て、2008年に退職して日教組の三役に就きました。バリバリの昭和世代の人間です。組合活動も、そんな義理と人情みたいな中でスタートでした。

ハート・トゥ・ハートの組合活動

新型コロナウイルス感染症の影響で、

2年にわたり様々な組合活動が中止や延期、縮小など制限のかかる中での取り組みとなりました。その中で、フェイス・トゥ・フェイスの組合活動の大切さも再確認されました。職場訪問や会議・学習会などが十分にできない状況もあるかと思えます。だからこそ、組合員に丁寧な情勢や取り組みを説明し、理解を求め、組合運動を広めていくことが重要です。私は、ただ顔を合わせるだけでなく、そこに気持ちを入れていくことが、今求められていると思います。私は、ハート・トゥ・ハートの組合活動を訴えたいと思います。対面だけでなく、Webの会議であっても、画面を通じて顔を合わせ、心を込めて言葉を伝えましょう。運動を語り合いましょ。ハート・トゥ・ハートの組合活動、つまり腹を割っての話し合いです。以心伝心です。そのことが、組織の拡大・強化にもつながっていくものと考えます。連合運動の前進によって、組合員の笑顔と家族の幸せにつながるよう、取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



清水秀行 連合事務局長